徳島県総合計画審議会「若者クリエイト部会」会議録

Ⅰ　日　時　　平成２５年３月７日（木）１５：３０～１７：３０

Ⅱ　場　所　　県庁１０階　大会議室

Ⅲ　出席者（敬称略）

【委員】全員出席（１０名）

青木正繁（部会長）、福島明子（副部会長）、
蔭山洋子、川眞田彩、近森由記子、樋泉聡子、
池添純子、岡田育大、竹内祐介、村松享

【オブザーバー】全員出席（１０名）

板東純平、高木和久、榊原陽子、山下哲央、先山知佐、
小原和浩、蔵本聖子、松本秀明、石井里奈、釋子由香梨

【県】

政策創造部長、政策創造部副部長、総合政策課長　ほか

Ⅳ　次　第

１　開　会

２　議　事

（１）部会の運営について

（２）意見交換

（３）その他

３　閉　会

《配付資料》

資料１　「若者クリエイト部会」運営の基本コンセプト（案）

資料２　国への政策提言のスケジュール（平成２４年度実績）

資料３　国への政策提言の例示

資料４　「いけるよ！徳島・行動計画」のマネジメント・サイクルについて

参考資料　・徳島県総合計画審議会設置条例

・徳島県総合計画審議会部会設置規程

Ⅴ　意見交換

（事務局）

定刻がまいりました。それでは、ただいまから、「若者クリエイト部会」を開催いたします。

まずはじめに、八幡政策創造部長より御挨拶いたします。

（八幡政策創造部長）

ただいま御紹介いただきました、政策創造部長の八幡でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

今日は、委員の皆様、オブザーバーの皆様、それぞれ１０名ずつでございますが、お忙しい中を御出席いただきまして大変ありがとうございます。

この「政策創造部」という、やや聞きなれない部でございますが、今年度といいますか、昨年の４月からスタートしまして、私も初代の部長で、皆が初代の部員なわけですけれども、国が非常に閉塞感が漂っている中で、新しい政策創造、未来に向けた思考をやっていこうという意味で新しい名称をつけて、いろいろ試行錯誤を繰り返しながら１年近くやってきたところでございます。

この「若者クリエイト部会」というのも、ある意味その発想の中で、若者という区切り方がいいかどうかという議論もあったのですが、要は「大胆なことを言っていただくような場を作りたいな」ということで、一つの区切り方として「若者」というふうにさせていただいたんですけれども、この会は、後ほど御説明いただきますが、青木部会長にすべてお任せしようという思いですけれども、唯一のコンセプトとして、「若者の若者による徳島の未来創造のための部会」という発想でございまして、運営方法も含めて本当に自由にやっていただければなと思っております。

こちら側のメンバーもプレッシャーをかけないように思っておりますし、他方で必要な時は何回か開かれる中で、「今度こういうところを呼んだらどうか」、「こういうところも呼んでくださいね」と言われれば来るというようなスタイルでいければと思っております。

ミッションは「特段ない」と言ってしまうといけませんが、あるとすれば「大胆なことを言ってください」ということでございます。

我々の政策創造に向けていろいろな「種」、それから同じ「シーズ」をしっかりとつくっていただいて、一緒に育てていければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局）

それでは、この後の議事進行につきましては、青木部会長さん、どうぞよろしくお願いいたします。

（青木部会長）

皆さん、はじめまして。部会長の青木でございます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。それでは座らせていただいて、議事を進行させていただきます。

それでは議事を進行してまいります。

まずはじめに、副部会長についてでありますが、部会長が指名することとなっておりますので、副部会長には、四国大学講師であられます、福島明子委員にお願いします。

福島副部会長、よろしくお願いいたします。

（福島副部会長）

よろしくお願いします。

（青木部会長）

さて、今回は、当部会の初めての会合であります。事務局の皆さんに日程調整をしていただき、本日メンバー全員にお集まりいただいておりますので、この際、お一人ずつ自己紹介を賜りたいと存じます。

発言順については、まず、私からとさせていただきます。続いて、福島副部会長、その後は、こちらのお手元の資料にございます、「若者クリエイト部会委員名簿」のメンバー表に従いましてお願いしたいと思います。

それでは、座らせていただいて自己紹介をさせていただきたいと思います。

まず、私でございます。委員名簿の方には、多分、「ソーシャルワーカー」というふうに入っております。皆さん、「ソーシャルワーカー」って何かな、ピンとこないなと思いがちかもしれません。実は私は仕事といたしましては、阿南市にあります「馬原医院介護老人保健施設『悠心館』」という介護保険の施設の相談員をさせていただいております。

普段はネクタイをピシッと締めてするのではなくて、ジャージの姿で高齢者の皆様の御相談であるとか、御家族の皆様の御相談である、はたまた、行政の方々への手続きをさせていただいて、日々奮闘させていただいてございます。

皆さん、おじいちゃん、おばあちゃん、好きですか。全く自己紹介とは異なりますが、おじいちゃん、おばあちゃんがおられる方。おられますね。ありがとうございます。

やはり、おじいちゃん、おばあちゃんを好きな方が我々のようなソーシャルワーカーであり、ケースワーカーであり、また介護・医療職に就かれておるというケースがほとんどでございます。そういった中で、私はそういった仕事をさせていただいております。

自己紹介ということなので、仕事のみを言うのではなくて、なぜこの県政運営の中で「若者クリエイト部会」、これを切なる願いでやってきたかというのを、少しだけお話しいたします。

はじめ、やはり県政のことというのは、全然遠い話かなというふうに個人的には思っておりました。しかし、仕事をする中で、高齢者の方が１名、ある日、「青木さん、こんな宝くじが当たったのよ。見てくれるで。私、宝くじ当たったけん、振込みをしてくれというけん、名前といろんなことを手続きをしてくれんで。」と言われました。見たときに、これは一発で「振り込み詐欺」、海外の宝くじの当たりだなというふうに感じました。

そのときに感じたのは、こんな身近でこんな阿南の片田舎で、こういったことがあるんだなと感じました。これは良くないということで、一番初めに、県政運営のためにやってやろうと思ったのが、今日もここにバッジをつけてございます、「くらしのサポーター」ということから入らせていただきました。

平成１９年４月に、第１回の「徳島県消費者生活審議会委員」に公募で入らせていただいたのが、県政運営との関りだと感じております。

その中で「くらしのサポーター」、高齢者の皆さんを守るという観点で切磋琢磨し、「くらしのサポーター認定制度」というのを徳島県で施行されたというのを大変嬉しく思っておった次第でございます。

そうだこうだとしている間に、今度は私個人も結婚をしまして子どもができました。その中でやはり徳島県は、少子高齢化がますます進んでおるというのを、幼稚園に入園したときに思いまして、今度は徳島県の「少子化対応県民会議」に行って発言してやろうということで、これも公募で小論文を書きまして、「少子化対応県民会議」に平成１９年９月から２年間滞在させていただいて、その時に関西のほうで、いま「くっつき虫」といって、県の方で「くっつき虫」のカードを持っていると、少しだけ優遇されるという制度があります。

それのみならず、「関西子育て世帯応援事業」として愛称を募集したときに、「すくすくかんさい」というのが応募でありまして、実はこの名称を付けたのは私であります。関西広域でも１０都府県で「すくすくかんさい」の看板、神戸に買い物に行ったときに見ていただいたらわかると思いますが、「すくすくかんさい」という看板があれば、徳島の「くっつき隊」というカードも使えますと。つまり、子育て応援の１事業として今も活かされている次第でございます。

さらに、今度は環境のことも言ってやろうと思いまして、今度は平成２０年には、私は「徳島県環境審議会」におったんです。このときに「環境首都とくしま」という推進がございまして、その中で公募された名称があります。「エコみらいとくしま」というのを、皆さんお聞きしたことがございますでしょうか。

県の方は知ってますよね。実は「エコみらいとくしま」をつくったのは私です。名称を採用されて、そのときに知事とともに「エコみらいとくしま」の序幕をさせていただきました。これで環境のほうも少しは、教育部門、また環境部門で県民の皆さんに対してしっかりといけるんじゃないかと思っておりました。

さらに、今度はそんなこんなをしていますと、県庁社内で受動喫煙が非常に多いということで、今度は県庁舎内で受動喫煙防止検討委員会に入って、まずは県庁の方から受動喫煙を防止しようということで、実はそれにも委員に入れさせていただいて、今、分庁等々、喫煙のほうに向かっているという次第でございます。

さらに、地域のほうでは、地域活性化と健康を目的にするために、任意団体「悠悠げんき塾」というのを組織の中でメンバーを集めてつくりました。そして、平成１９年１１月には、地域文化交流として、故三木稔先生のコンサートを阿南市とともに主催することにこぎつけた次第でございます。

やはり、文化振興を、徳島県の文化にも対してもしっかりと目を向けて地域活性に繋げていくということでやらせていただいた経緯がございます。

さらに、どうしても外せないのが防災の観点でございます。皆さん、このパンフレットを見たことはございますでしょうか。県の方は当然あられると思いますが、先般も「アスティとくしま」でフォーラムが行われた次第でございます。

これについてはしっかりと、「徳島県震災対策推進条例策定検討委員会」のほうに、これまた頑張って入れていただいて、こちらの「徳島県南海トラフ巨大地震等に係る震災に強い社会づくり条例」の高齢者の部門、福祉の分野においての意見をしっかりと言わさせていただいた経緯がございます。

それと同時に、徳島大学に１年間通わせていただきまして、防災士、自主防災組織を立ち上げるために防災士の講座を受けさせていただいて、１年間かけて防災士を取得して、現在、阿南市のほうでは、「阿南防災士の会」というのを昨年１月１７日に立ち上げた次第でございます。

そういったふうに県政やまた市制に対してもしっかりと意見を言いながらライフワークを楽しんでいるというかたちになっております。

東日本大震災のほうにも実は、防災の話をするとなかなか、「早ようせえ」と言われるかもしれませんが、非常に熱心でございまして、２３年6月１１，１２日と、２４年3月３，４日と２回、宮城県仙台市と名取市、若林区、石巻、女川町、松島町とボランティアに行かせていただいてございます。

そのときに感じたのは、女川町の町立病院の１９メートル以上あるところに、更に津波が来たという現状を３か月後に知ったときには、大変衝撃でありました。それ以来、県南域においてしっかりとした防災対策、防災士としてもそうですけれど、しっかりと守るべき使命があるんじゃないかというふうに心強く思って、今、ライフワークとしては防災についてしっかりとやっております。

実は昨日も１１月に行われます、「日本女性会議阿南大会」の第２分科会、防災のほうでしっかりと意見を述べさせていただいた次第でございます。その上にしっかりと、県や市の運営に対しても活動の輪を広げさせていただいた次第でございます。

「青木さん、カタいよ」と言われがちです。では、ちょっとユルい話をしますと、今、一つ悩んでいるのが、誰か、蔭山委員さんに教えてもらいたいのは、実は幼稚園の下の子が卒園なんです。そろそろ卒園のＰＴＡ会長もしてますので、卒園の文章を考えてくれというのが日ごろの悩みであります。

それと趣味としては、最近、一眼レフカメラを始めましたので、先々週の土曜日に牟岐町は出羽島ですね、今、「出羽島アート展」というのをしています。船に乗ってその写真を撮りに行ったりして日々過ごしているというのが、私の自己紹介でございます。長々と仕事のことやライフワーク、そして活動について御紹介をさせていただきました。

ここで一つ皆様に御提案があります。この部会でも、先ほど「蔭山委員さん」というふうに、私チラッと言いましたけれども、やっぱり〇〇委員というような事務的な呼び方はやっぱりカタいので、例えば、蔭山さん、村松さんというふうに、「さん」付けで呼ばせていただいてよろしいですか。皆さん、よろしいですか。

では、「さん」付けで呼ばせていただきます。ありがとうございます。

自己紹介を続けていきたいと思います。それでは、福島さん、お願いいたします。

（福島副部会長）

四国大学の福島でございます。先ほど、部会長と申し上げたら駄目なんですね。青木さんからお話があったように、ちょっとフランクな会かなというふうに認識しておりますので、ちょっと座ってお話させていただきます。

私は今、「四国大学経営情報学部メディア情報学科」というところで講師をしておるんですが、具体的に何を教えているかと申し上げますと、業務用のカメラを持って撮影をして、それを編集をしてどのように発信、配信していくかという、そういうことを教えているのとともに、地域の経済というのはどんなふうにできているんだろう、どんなふうなメカニズムで動いているんだろうというようなことについて、今、学生たちと一緒に勉強しているところです。

もともとの専門というのは、建設工学科というところを卒業しておりますので、土木関係のことが専門で、「まちづくり」とか「地域づくり」とか、あとは、国土計画、地域計画ということが専門で、今も研究はそちらでしております。

あまりこういうカタい話をしておりますと、青木さんに怒られてしまいますので、先ほどちょっとお話ありましたけれども、出羽島に私も１２日にまいります。それはなんで、個人で行くのではなくて、南部総合県民局の方々と地域を盛り上げていきましょうと。「離島の活性化」という取組が行われておりまして、本年度は伊島、阿南の伊島の活性化について、一緒に伊島の方々と取り組んできたところでございます。

来年度は出羽島にということで、ちょうどアート展が行われておりますので、１２日に視察に連れて行ってくださるという運びになっております。

私は今日、こうやって皆さんの前でお話をするということをあまり想定しておりませんで、自己紹介をしなさいと、だいぶ前に言われておったんですが、すっかり失念しておりまして、何も考えてきておりません。

一つだけしたことがございまして、もしかしたら「フェイスブック」でみんなでここで繋がって、「日々どんな生活をしているのかなということも友達になってやったらいいんと違うかな」というお話をいただいてましたので、昨日、一夜漬けですがアカウントをつくりまして、先ほどまでいじっておりました。なので、よろしければお友達になっていただけたら嬉しいというところです。

個人的には最近結婚いたしまして、ずっと「近藤」でやってきていたのですが、「福島」になりまして、自分でもあまり慣れておりませんので、たまに「近藤です。」と申し上げることがあるかと思いますが、ちょっと優しく笑っていただけたらと思います。

福島の家に入りまして、お父さんが三味線のお師匠さんをしているんです。最近、三味線を始めまして、これも徳島の文化の振興のためという、後付けですが、そんなような生活を送っております。

まだ子どももおりませんし、右も左もわかりませんので、副部会長という肩書きをいただいたんですけれども、力不足で何もできないかと思いますが、青木さんに付いて頑張りたいと思いますので、

今後ともよろしくお願い申し上げます。

（青木部会長）

ありがとうございました。

では、続いて委員名簿順にまいりたいと思いますので、蔭山さん、よろしくお願いいたします。

（蔭山委員）

蔭山洋子と申します。よろしくお願いいたします。座りまして御挨拶させていただきたいと思います。

私は、徳島県生まれ徳島県育ちでして、大学だけ東京の大学に行っておりました。卒業後「エフエム徳島」というラジオ局があるんですけれども、皆さんのところでも聞けるんじゃないかと思いますが、徳島市近郊だと８０．７メガヘルツで聞くことができます。

この「エフエム徳島」に入局して数年局アナを勤めた後、フリーアナウンサーとして今活動しています。毎週金曜日、明日になりますけれども、午後１時から４時間の生放送の「ＦＲＩＤＡＹ　ＯＮ　ＬＩＮＥ（フライデーオンライン）」という番組を担当しているんですが、こちらの番組はもう６年目になっています。

ラジオ以外にもイベントの司会ですとか、あと、式典の司会などをさせていただいておりまして、徳島県関係のイベントですとか､式典の司会というのも年間に何度か務めさせていただいております。

司会とかアナウンサーの仕事をしておりますと、本当にいろいろな人に出会います。どうしても、一つの職業に就いていると、その職業にまつわる方々と出会ったりですとか、何となく大きなグループがあって他の人たちと出会うことというのは、なかなかないかもしれませんが、司会とかアナウンサーをしていると、本当に毎日のようにいろいろな人に出会って、浅いんですけれども、いろいろなグループとか、いろいろな組織の方々とお話をすることによって、いろいろなお話を聞くことができたり、裏側をちょっと覗くことができたりします。そういったのが私の今の経験に繋がっているのではないかなと思っています。

プライベートな話ですけれども、前にもお話ししたんですけれども、２か月程前に出産をしたばかりで、今、男の子を、上が３歳８か月、２人目が今２か月なんですけれども、２人の男の子を育てています。

まだ２か月ですので、夜は３時間おきぐらいに起きています。ちょっと今、まだ眠たくてボーっとしていることもあるんですけれども、もう少ししたらまとまって寝てくれるようになるんじゃないかというふうに思っています。

独身のときですとか、子どもがいないときというのは、正直言いまして、あまり行政のサービスというのもよくわかってなかったですし、徳島県がどういう取組をしているのかというところにも、あまり興味もなかったんですが、やはり子どもができたことによって、育児を通して「こういうふうに税金が使われているんだな」とか、「行政サービスがあるんだな」というふうに、生活の中でより身

近に感じるようになりました。

私は、皆さんと違って専門的分野というのが特にないので、こういった場で学んだことですとか、知ったことというのをラジオとかを通して、例えば、リスナーの方に問いかけてみたりとか、リスナーの方から幅広く意見を頂いたりとか、私なりにわかりやすく、聞いてくださっている方に伝えるということが使命ではないかなというふうに思っています。よろしくお願いいたします。以上です。

（青木部会長）

ありがとうございました。

次に川眞田さん、お願いします。

（川眞田委員）

「新町川を守る会」会員の川眞田と申します。

私は実家が徳島県にはなくて、九州の鹿児島県に実家がありますので、年末年始とか、お盆はほとんどこっちにいなくて、こちらは仕事で、大学がこちらでしたので、そこからずっと一人暮らしをしているという状況です。

「新町川を守る会」の会員となっていますが、大学を卒業してすぐに「新町川を守る会」の職員になりまして、遊覧船は皆さん御存知の方は結構いらっしゃるかなと思いますが、そちらのほうではなくて指定管理者を務めております「市民活力開発センター」という、幸町にある建物なんですが、そちらのほうに出向というかたちで勤務しております。

その市活センターでは何をしているかというと、市内を中心とするＮＰＯ法人さん、もしくは公益的な活動をしている任意団体のサポートというのを主な業務にしております。今年度から徳島市の周辺にあります１１市町村のＮＰＯさんも支援対象になりましたので、最近では佐那河内村、勝浦町なんかにも出入りをさせていただいて、主に大学生で県外から来ている子たちが、せっかく徳島県にいるので、その間、もうちょっと徳島市内だけではなくて、徳島県内にあるいろいろな市町村ですとか、資源を自分たちも関ってみたいということで、最近ですと、佐那河内村の耕作放棄地に実っているキウイを使って徳島市の授産施設と一緒に商品開発をしようということで、最近はその仲介なんかを主にしております。

「新町川を守る会」のほうでは、私は船の免許がないので、ほとんどサポートできることがなくて、「吉野川フェスティバル」なんかでちょっとお手伝いさせていただいているという状況です。

個人的には、趣味でスポーツ用バイクに、自転車に乗っておりまして、冬場はちょっと寒くて乗れなかったんですけれども、休みの日になると阿南とか高松とかのほうまで「ロングライド」といって何人かで一緒に自転車で連れ立って走ったりしています。

「サイクリングロード」というのが海沿いにあって、鳴門のほうですとか阿南のほうまで繋がっているんですけれども、私が乗り出したのが最近で、まだ４年目ぐらいなんですけれども、結構綺麗で景観がすごくいいんです。県外からも練習に来られているかたとかもいるんですけれども、「どうに

かしないといけないね」とそのグループで言っているのが、結構、草とかが生えてきて、あまり自転車が走るには良い環境ではなかったりとか、自転車のマナーが、最近車道を走るようになって、車を運転されている方ですと、「自転車危ないから車道を走らないで」となるし、歩行者の方からすると「自転車の速度が非常に速いので歩道は走らないで」ということになるしで、その辺を考えないといけないねという話を自転車の仲間としています。

それが県政にどう繋がっていくかというのは難しいとは思うのですが、私がＮＰＯ支援をしているところからも行政にお願いばかりするのでなくて、自分たちでできることはどの範囲なのかということを考えてすると。それ以上できない部分に関しては、行政の方にも相談させていただいて、一緒に協力できるような方向性で考えようというのがＮＰＯの基本的な理念だと思いますので、個人的にもそれを実践していけたらいいかなというふうに考えております。よろしくお願いいたします。

（青木部会長）

ありがとうございました。

次に、近森さん、お願いいたします。

（近森委員）

はじめまして。「徳島県青年国際交流機構」で事務局長をしております、近森由記子と申します。

まず、「徳島県青年国際交流機構」って何だろうと思われると思いますが、こちらは内閣府が主催しております「青年国際交流事業」の既参加青年の方で組織されている機構でして、各都道府県にあります。徳島県では、私が所属しているところになります。

内閣府が主催している「青年国際交流事業」って何だろうと思われると思いますが、ちょっと前まで民主党政権だったときに、岡田さんが発言した、「世界青年の船」がもう廃止になると言っていた記事を御覧になられた方もいると思いますが、そういう「世界青年の船」ですとか、日本・韓国の親善交流ですとか、いろいろな事業をしている一環で、私はその一回なくなってしまった「世界青年の船」の参加青年でした。

でも、もしかしたらまた復活するかもしれないという話もチラチラと聞こえてますので、ちょっと楽しみにしております。

私はその「世界青年の船」に参加してから、世界というものをとても身近に感じるようになりました。それは「世界青年の船」では、その当時は１４か国のいろんな国の方と一緒に船で１か月以上生活するという、本当に非日常的な体験をさせてもらいました。

それが、そのプログラムが終わる頃には、それが日常になってしまって、また日本に帰ってきた後がまた自分を戻すのがとても大変だったぐらい、すごく楽しいプログラムでした。

そこに参加して、それで終わりかといえばそうではなくて、そこから繋がるネットワークはものすごい広いものがありまして、例えば、福島さんがおっしゃってくれたように、フェイスブックで繋がっていることがとても身近に感じることができます。

誰かが誕生日だったら、みんなで「おめでとう」と言ってみたり、誰かが結婚したら、前もイエメンから招待状が来まして、私は「とてもイエメンには行けません」と返事は送ったんですけれども、とても世界が身近になって、今は若い人たちが外に出て行くのにとても消極的だということを聞くんですけれども、この内閣府の事業もそういう若い人たちに間口を広げて募っていますので、どんどんそういうところに参加してもらいたいなと思っております。

仕事としては、この「徳島県青年国際交流機構」というのはボランティア団体でして、仕事は別にしております。この「世界青年の船」に参加したお陰で今の仕事に就けているなと思っているんですけれども、今、山川町にありますＮＰＯ法人の「ＴＩＣＯ（ティコ）」というところで国際協力の関係の仕事をしております。

私事なんですが、来週の木曜日から１週間ザンビアのほうに行くことになりました。ザンビアって聞いたことございますか。知っている方、いらしゃいますか。

（青木部会長）

どの辺ですか。

（近森委員）

アフリカ大陸があります。一番南が南アフリカです。その上ぐらいです。真上ぐらいです。周りの周辺の国がわからないのですが、南アフリカで、もう一つ国を挟んでその上ぐらいのザンビアというところに行くことになりました。

国際交流も国際協力も、たぶん同じだと思うんですけれども、世界を知るということは日本を知るというということをすごく実感しています。

それは、本当に「世界青年の船」に参加したときから、世界の人に、例えば他の国の人に話をするときに、あなたの国はどうなのか、あなたの住んでいるところはどうなのと聞かれたときに、何も言えない自分というのがいました。

そこで、私は日本のこと、徳島のことを知らないなというのは、ものすごく感じました。国際協力をする上でも世界を知るということは、世界の人たちがこういう暮らしをしているんだ、じゃあ私たちはどういう暮らしをしているんだろうという考え方にどんどんなっていって、やっぱり世界を知ることは日本を知ること、そして徳島を知ることというふうに思うようになりました。

今回こういう会議に参加させてもらうようになって、まだまだ県政に参加しているという、そんな大それた気持ちではないんですけれども、徳島を知る、日本を知る上でこういう会議に参加させてもらって、自分も、それから徳島も成長していくお手伝いが私もできたらなと思っております。どうぞよろしくお願いします。

（青木部会長）

ありがとうございました。

では、続きまして樋泉さん、お願いします。

（樋泉委員）

はじめまして。樋泉聡子と申します。

私は神山町のＮＰＯ法人「グリーンバレー」に在籍しておりまして、仕事としてはサテライトオフィス担当ということで、よくテレビとか新聞とかで御覧になられた方も多いと思いますが、県外の企業さんが神山町に来られるときのサポートであったりとか、窓口とか、あと、神山町内の情報を発信していくということを仕事としております。

徳島県の「集落再生事業」としても、サテライトオフィスがプロジェクトになっておりまして、こちらのほうのチームの一員としても徳島県、他に神山町以外にも三好と美波というのがあるんですけれども、そちらのほうと連携を取りながら徳島の魅力というのを発信させていただいております。

私自身は、東京生まれで育ってきたんですけれども、縁あって１年半前から神山町に移住というかたちで来させてもらっております。グリーンバレーは５月からで任期はまだ短いのですが、外から来て、中で生活をしているという視点を活かして、こういった部会であったりとか、お役に立てたらいいなと思っております。

徳島に来て、神山に住んで、やはり移住者ということでよく「どうなの」と聞かれることが多いんですけれども、私個人としてはすごく快適に過ごさせていただいておりまして、今まで個人的には旅が好きで、国内外のいろいろなところにバックパックで出かけたりとかしていく中で、とても行くということが多かったんですね。どこかに出かける。ただ、今、神山、徳島に住むことによって素晴らしいいい自然に触れ合うことであったりとか、本物ならではの仕事をしている方に出会うこともあって、来ていただく、来てもらうことができる楽しみというのをすごく発見できたなと思って、今は自分が行くよりも来てもらって楽しんでいただくというほうの比重が多くなってきています。

もっといろいろな人が一極集中ではなくて、徳島であったり四国であったり来ていただいて、その中で日本を楽しんでもらえたらいいなと思っております。以上です。よろしくお願いします。

（青木部会長）

ありがとうございました。

では続きまして、池添さん、お願いいたします。

（池添委員）

阿南工業の建設システム工学科に所属しております、池添と申します。どうぞ、よろしくお願いいいたします。私自身は出身は兵庫県の川西市で徳島暦は約５年ぐらいになります。

それまでは高校卒業後、関西を転々としていたので徳島にはほとんど来たことがなかったのですが、来るきっかけは、結婚を機にというか、出産をするために来たという感じで、研究職の場合は、かなり別居婚というんですけれども、研究職というのは、全国どこでも自分の専門に合った職があったら、

女性であってもどこでも行くんですけれども、結婚をしても関西に残ってそういう仕事をちょっとしていたんですが、子どもを育てるに当たって、研究職でなくてもいいから徳島に住んで家族で暮らそうと思って、徳島に来たのがきっかけです。

偶然なんですが、蔭山さんと全く同じ３歳８か月の男の子と今７か月になった男の子の２人の子育て中でして、実は阿南高専で仕事はしているんですが育休中です。このような会議に来るときは、ちょっと主人に休んでもらって預けてきております。

専門は、生活環境学部というところで博士課程を過ごしまして、「地域づくり」とか「コミュニティがどのようにあるべきか」というようなことをやってました。詳細な研究テーマとしては、青木さんに近いんですけれども、高齢者の方が地域の中で最後まで生活をし続けるためには、どのような地域づくりが必要であるかというのをテーマにしておりました。

実際にどのようなことをしていたかというと、いろんな日本の各市町村を訪れて行政計画がどうであるのかとか、実際の介護保険の施設を訪ねて、地域との関わりがどうであるのかというようなことを調査したりとか、スウェーデンとかカナダとか福祉の最端といわれているところの行政の政策を聞きにいって、日本で真似れるところとか、エッセンスはどういうところを入れたらいいのかというところを研究しておりました。

そういうこともあって、行政の計画は実際に自分の生活に密着しているというか、本当に行政計画によってこれだけ生活が変わるんだなということを実感しているところです。

特に子どもを持ちまして、また今まで転々としていたのが、徳島という定住先が決まりまして、子どもが大体３０ぐらい、私たちと同じぐらいの年になった時に、本当に徳島がどんな姿になったらいいのかなというのを考えていかないといけないなというのを、昨日も県外の研究者が来て、美波町の視察とかに行っていたんですけれども、時間軸では３０年後といっても、今とずっと繋がっているので、今考えてやっと３０年後ぐらいに実現ができるのかなというような感覚なんです、地域計画としては。

それで、箱物という施設を造るという計画よりも、私は地域のコミュニティとか、その人がその人らしい生活をし続けるためにどういうことが行政としての支援であったりとか、住民自身が何をしないといけないのかということを考えていかないといけないということを思って、昨日も久しぶりに研究の頭を使って活性化されたところであります。

是非よろしくお願いします。

（青木部会長）

ありがとうございました。

続きまして、岡田さん、お願いいたします。

（岡田委員）

皆さんはじめまして。岡田と申します。

今回は、「株式会社フォレストバンク」というところで表記していただいていると思いますけれども、私自身は木頭村の古い林業家の１９代目になります。１９代目というと、約４００年ぐらい続く、昔は庄屋だったようなところなんですけれども、古い家の山持ちで、世間的な評価はボンボンと言われています。

そのボンボンだけじゃないぞというのを払拭すべく、いろいろと勉強しまして、高校から東京に単身で出て行きまして、東京の大学在学中に公認会計士の資格を取得しまして、それから卒業後には大手の監査法人で５年ほど勤めまして、その後、実家がやっぱり林業ということなので、その何か会計士としても林業に携われることはないかということを考えておりましたら、「環境会計」という分野があるということが発覚しまして、環境会計という分野で勉強しておりましたら、森林は二酸化炭素を吸収するというふうにいわれておりますけれども、その二酸化炭素の吸収量を価値に変えて売却していくという事業があるということで、「排出権」といわれていたものだったり、「カーボン・オフセット」といわれているような事業なんですけれども、そういった事業をやるのに「スマートエナジー」という会社を立ち上げまして、そこで５年ほど所属をしてやっております。

一方で、実家の家業がありますので、山林の管理をする必要がありましたので、「フォレストバンク」という会社を４年ほど前に立ち上げまして、その代表取締役ということになっております。

なので、東京のほうでは公認会計士の個人事務所をしながら、スマートエナジーの非常勤社員をやりながら、徳島のほうではフォレストバンクの代表取締役として山林の管理をやりながら、一応、税理士登録は徳島のほうでさせていただいているんですが、税理士をやりながらという、ちょっとわからない職歴というか、現状です。だいたい東京に三分の二ぐらいおりまして、徳島のほうに三分の一ぐらいいるというような生活を送っております。

それとは別に、地域活性化という、もう言葉は古いかもしれませんけれども、いろいろと自分なりに取り組んできたことがありまして、２００７年ぐらいからなんですけれども、東京の高輪というところでたまたまお祭りがありまして、そのお祭りで何かやってくれと言われまして、いきなり徳島の物産展を個人的に人を集めてやったというのがきっかけで、現在その繋がりで「Ｈｏｍｅ　Ｉｓｌａｎｄ　Ｐｒｏｊｅｃｔ（ホームアイランドプロジェクト）」、通称「ＨＩＰ（ヒップ）」といわれている団体なんですが、東京在住の四国出身者の集まりを取りまとめている団体がありまして、その「ＨＩＰ」の代表を務めさせていただいております。

その一つの活動としては、ニューヨークで阿波踊りをするという活動を４年ほどやらせていただいておりまして、今年で４年目になるんですけれども、徳島の学生と東京にいる徳島出身の大学生を連れてニューヨークで阿波踊りをするというような遊びも、大人の遊びというんですか、そういうこともやっております。

僕自身は、地域活性というところに関しては、すごく興味のある分野だし、僕も結婚を、紆余曲折あったんですが昨年の１２月にしまして、子どもが今年の４月に生まれるという非常に説明しがたいことになっているんですが、子どもが生まれるということで、やっぱり子どもは徳島で育てたいと思っておりまして、阿波弁を喋ってほしいというところがありまして、そういう意味で、徳島で育てる

というのは決めているんですけれども、そうやって徳島で育てるということは、僕も徳島で生活をしなければいけないし、徳島でしっかり仕事をしなければいけないということもあって、そうするためにはどうすればいいかというと、自分自身がしっかりと働けるとか、しっかりと徳島の中でコミュニティを持ってやらなくてはいけないという気持ちがあって、そういう地域活性というのは、すごく僕的には重要視して取り組んでいる分野です。

なので、そういう意味で今回の「若者クリエイト部会」でも、そんなに有意義な発言ができるかどうかはわかりませんけれども、いろいろ関わらせていただいてコメントさせていただいたり、間を取り持たせていただいたりとかできればなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（青木部会長）

ありがとうございました。

続きまして、竹内さん、お願いいたします。

（竹内委員）

はじめまして竹内祐介と申します。

「株式会社ダンクソフト」徳島チームに所属しております。普段はプログラマーをやっております。

ダンクソフトというのは、ＩＴ企業なんですけれども、普段はシステム構築であったりとか、ウェブページの製作であったりとか、あとはマイクロソフト製品の導入サポートのような仕事をしております。

僕自身、ダンクソフトに入ってまだ１年満たないぐらいになります。１年前に１０年ほど働いてましたジャストシステムを退職しまして、次の転職先を探していたんですけれども、プログラマーとしてなかなか徳島県で、徳島で住みたいという思いはずっとあったんですが、なかなか転職先が見つからない。

これだけＩＴが進んでいて、なおかつプログラマーというＩＴを一番使いこなしていなければいけない職業のはずの人間が、どうして徳島で働けないんだろうという、すごい悔しい思いをしていたんですが、そのときに神山町でサテライトオフィスプロジェクトをやっていたダンクソフトと知り合いまして、ダンクソフト社長の星野に相談しまして、徳島で働きたいんだけれども、何とか徳島チームをつくってくれないかと相談して、何とか徳島チームを立ち上げた次第です。

今、ちょうど１年ぐらいになるんですが、ようやく徳島チームも軌道に乗ってきまして、今４名でやらせてもらっています。

なので、僕自身すごく悔しい思いをしたので、住みたい場所とやりたい仕事という両立が可能なように、もっともっとなっていけばいいのかなと思っております。

趣味になるんですが、趣味でマラソンをここ数年やってます。２月には「海部川風流マラソン」と、あとは、「東京マラソン」が当たったので走ってきました。

徳島のフルマラソンは「徳島マラソン」と「海部川風流マラソン」の二つになると思いますが、ど

ちらも全国的に評価が高いマラソンになっているので、これからも、もっともっと発展していけばいいと思っております。以上です。よろしくお願いします。

（青木部会長）
ありがとうございました。
続きまして、村松さん、お願いいたします。

（村松委員）
皆様はじめまして。村松亨と申します。私は徳島県の祖谷の山奥のほうから出てまいりました。所属は「ＮＰＯ法人篪庵（ちいおり）トラスト」というところに属しております。
私は専門であったりですとか、特に深く関わっている分野とか申し上げるようなところは特になくてお恥ずかしいんですけれども、今、勤務している祖谷の場所では、主に観光事業に携わっているといったところです。
具体的にしていることといえば、萱葺きの古民家が一つとプラス三つありますね、合計４棟あるんですが、そちらを宿泊施設として我々の団体のほうで運営しております。
もともと私は静岡県の出身です。徳島には縁もゆかりもございませんでした。しかしながらご縁がありまして、今年の春で５年近くになるんですが、５年前、２００８年の５月にこちらのほうにまいりました。
きっかけはテレビで、とある外国人、「アレックス・カー」というんですけれども、もしかしたら皆様の中にも、テレビか新聞か何かで御覧いただいている方がいらっしゃるかもしれないんですけれども、そういったアメリカ人がいまして、その者が、徳島の祖谷に萱葺きの古い３００年の古民家を持っているという特集をしていたテレビ番組がありまして、そのテレビを見ていたのが、もともとのきっかけです。
その当時、私は大学を卒業してフラリフラリとしながら、大学ではインテリアデザインをちょっとアメリカのほうで、本当にあまり具体的な目的もなくぼんやりと勉強していたんですけれども。
先ほど近森さんのほうからもあったかと思うんですけれども、私も少なからず日本の外に出てみて、世界をちょっとでも知ろうと思って行ったのに、気付かされたのはあまりにも日本のことを何も知らないという実態でして、これは恥ずかしいし、世界でどうこうするような段階ではないと思いまして、日本に帰ってきて何か少し改めて勉強することが、最終的には世界に出て行く糧になるのかなと思いまして帰ってきました。
それで、物づくりに興味がありましたので、地元の静岡市で木工の木の家具づくりとか、伝統産業を少し見習う機会がありましたので見習いをしてました。
ただその中で、やはり静岡でも、その産業で人が食べていくのは大変で、どんどん廃れていくばかりという状況でした。その中で、そういった伝統的な産業であったり、文化をどういうふうに残していくのかというところで、新しいビジネスモデルを提案していたのが「アレックス・カー」という人

物で、その当時、京都でも町家なんかを改修して宿泊施設として復活させる、今までの用途ではないですけれども、逆に古いものを次の時代に向かって次の時代のニーズの中に組み込んで使っていく。そして、それをビジネスにしていくことこそが本来の伝統ということなんだというようなメッセージとして、私は勝手に理解しまして、すごく影響を受けた者です。

それで、京都を訪ねて行ったりとかしたんですが、最終的にアレックスが二十歳のときに、今から４０年前に購入した、その篭庵に関係する仕事をするという機会をいただきまして、５年前に祖谷のほうにまいりました。

その当時は、正直、私の期待とはちょっと裏腹に、そこまでテレビで見たような進んだビジネスのかたちがあるということではまだなくて、どうなるのかなと思っていたんですけれども、たまたまその時期から地元の行政の三好市さんのほうでも、その篭庵というアレックスの古民家のみならず、祖谷という地域全体で伝統を活かしながら観光事業で、限界集落である祖谷を再生していこうという動きが始まってまいりまして、それが、私がそこに居続ける一番のモチベーションになったかなと思うんですけれども。

そこで、初めてまちづくりというものに携わるようになりまして、準備段階のほうから取り込んでいただいて、今までやってきたわけですけれども、そして昨年の４月から具体的に三好市さんのほうでも整備された新しい３棟の古民家の物件と、昨年、篭庵のほうも新しく大改修ができまして、現在４棟を宿泊施設として運営させていただいているというような状況です。

初めて見て、まだ１年なんですけれども、お客様としては観光シーズンのお盆なんかは東京、神奈川とか関東からのお客様が三分の一以上というようなこともありまして、もちろん四国内、県内からも多くのお客様に来ていただいているんですけれども、そうした意味で、やはり潜在的な徳島の山の中の資源なんですけれども、価値ある資源があるんだなということを感じております。

さらには、今月の後半から４月なんかは毎年そうなんですが、ヨーロッパからのお客様がなぜか多い時期で、今年なんかはさらに篭庵を改修したことであったり、新しい事業が進んでいることもありまして、連続で海外の家族のお客様が入っているというような状況で、結構問い合わせなんかもわざわざイギリスから国際電話をかけてきて、何度もいろいろ聞いてきたりとかするような熱心な方もいらっしゃるほど、この地に魅力を感じてくれているのかなというふうなところがございますので、やっぱり何か、たまたまのご縁でここに来させていただいたんですけれども、ここでまた祖谷の山奥にいながらにして世界と繋がっていられる。逆にアメリカにいたころなんかよりも、祖谷であり、自分の国、日本を世界に対してピーアールできているような現状に恵まれているのかなというような心境でございますので、これからますます、まだまだ徳島のことも勉強不足なんですけれども、こういった機会を通しまして徳島の魅力発信であったりですとか、パワーアップに努めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

（青木部会長）

ありがとうございました。

続きまして、オブザーバーの関係になります。ここからちょっと時間短縮でお願いしたいと思います。

では、板東さんからお願いいたします。

（板東オブザーバー）

板東純平と申します。どうかよろしくお願いいたします。

私は今、所属は県庁の政策創造部総合政策課というところで勤務しております。これまでどちらかというと、都道府県同士とか市町村の役場の方とかと関わる仕事が多くて、逆に言うと、県民の方と直接お話をする機会があまりなかったので、今日、このような場にいられるというのは非常に嬉しいなと思っております。

私は徳島出身ではなくて、両親は徳島出身ですので縁はもともとあったんですが、私自身は福井県の敦賀というところで生まれまして、父親が転勤が多い仕事でしたので、その後、２年か３年おきぐらいに、東京、千葉、滋賀県、宮城県、滋賀県、京都とあちこち行きまして、ただ就職する際には、もうあまりあちこち行くのはどうかなという気持ちもありまして県庁に入りました。ただ、最初の異動で東京にまた行ったりとか、あちこち転々としております。

実はその東京で今の妻と知り合いまして、こちらで二人で住んでいるわけですけれども、そういうわけで二人とも徳島県民暦が浅いので、「徳島ってこういうところだよね」ということを、他と比べて二人で話をすることがよくあります。もちろんいい所もたくさんあると思いますし、逆に、もうちょっとこうしたらいいのにということを強く思うこともあったりして、もしかして、そういうことを言う場がここにあるんだとしたら、それもまた非常に楽しみだなと思っております。

先ほど川眞田さんからもちょっとお話があったんですが、私も自転車が、ロードバイクに乗るのが非常に好きで、四国一周したりとか「しまなみ」を走ったりとか、もちろん県内でも祖谷も行ったことがありますし、神山も行きましたし、非常に楽しいところだなと思いながら毎日生活をしております。どうかよろしくお願いいたします。

（青木部会長）

ありがとうございました。

高木さん、お願いいたします。

（高木オブザーバー）

隣の板東さんと同じく、県庁から参加させていただいております。高木と申します。よろしくお願いいたします。

委員名簿のほうにも書かれておるんですが、今、私が所属しているところは、県庁の財政課というところで平成１０年に入庁しまして、もう１５年ということで、年も３８歳になりまして、「若者クリエイト部会」にぎりぎり参加させていただいたぐらいの年齢になっております。

２４年度から１年間、財政課のほうに所属させていただいているんですけれども、そこでは福祉施策とか医療とか、先ほどもありました、介護とかそういったものを所管しております、保健福祉部、病院局関係の予算編成なんかを一緒に携わってきたところです。

２４年度から財政課だったんですけれども、その前がちょうど、青木さんが老健施設の相談員さんをされているということなんですが、保健福祉部のほうで、長寿分野のほうで所属もしておりまして、計画の策定なんかにも携わったこともありますので、その辺の経験が活かせればというふうに考えております。

このたびはオブザーバー参加ということになるんですけれども、部会からのいろいろな発信に、お役に立てるようにしていきたい、参加させてもらいたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（青木部会長）

ありがとうございました。

榊原さん、お願いいたします。

（榊原オブザーバー）

東部保健福祉局徳島保健所より参加させていただいております、榊原陽子といいます。主任主事となっておるんですが、実際、職種としては保健師という職種で働いております。

いろいろ担当はあるんですが、今現在、私が担当しているのが、母子保健を主に担当しておりまして、障害のある子どもさんに関わることであったり、未来の親になる高校生や大学生に向けて親になるためには、今どんなことが必要なんだろうという教育、それから、大学生と一緒に高校へ行って、未来のパパやママになる高校生に向けて、「赤ちゃんってこんなに可愛いんだよ」とか、「妊婦さんってこんなに大変なんだよ」というような体験をしてもらったりという活動をしております。

個人的なことであれば、池添さんや蔭山さんと同じように、３歳の双子の子どもがおります。子どもを持っていろいろ視点が変わるのは私も同じで、母子保健に携わっていながら、子どもを生んだことによって更に、この徳島県の母子の施策ってどうなっているんだろう、また、仕事に向かう姿勢が変わったかなと思っております。

また今回、このような「若者クリエイト部会」に参加させていただいて、今まではこのような審議会だったり、計画だったりというのは、保健所でいる間は、所長や局長や課長やもっと上のほうの人が関わるもので、自分とはすごい遠い世界のことだと思っていたので、突然この部会に呼ばれて私は一体どんな立場でいればいいんだろうというふうに思っていました。

でも、この前段の会議では、もう所属は忘れて、立場は忘れてという話だったので、一保健師、一母、県の職員であるということはもちろん、一個人でありますので、立場としてはあるんですが、そのような視点からいろいろ発言させてもらえたらなと思っております。よろしくお願いします。

（青木部会長）
ありがとうございました。
続きまして、山下さん、お願いします。

（山下オブザーバー）
南部県民局からまいりました、山下と申します。
２週間前に副部長室に呼ばれまして、「山下君、ちょっと被告人席に座りたまえ」と言われて、座って何かなと聞いたら、「『若者クリエイト部会』に行ってくれ」と言われて、ここへ土木代表で行ってこいということで来ております。
普段の仕事は、南に那賀町という町があるんですが、ものすごい広い町でして、旧５町村が合併しておりまして、その旧の木頭村、木沢村を担当しております。どういった内容かといいますと、維持管理担当といいまして、主に道路の維持補修をしております。特に那賀町でも木頭、木沢といいますと奥那賀ですので、非常に落石等が多いところでして、冬であれば雪も多いところでして、そういったところの道路の維持管理のほうをさせてもらっています。
個人的な話で言いますと、今、子どもがもうじき１歳になるんですが、女の子がいまして、その子育てに奮闘中です。趣味は個人的に家を建てるということで、今、一生懸命、家の図面等を考えもって書いているというのがライフワークになっています。
ここに来るまではどんな部会だろうかということで、実際どきどきしながら来たんですが、ここに来て話を聞いていて、青木さんの雰囲気とかで、ちょっと和やかな雰囲気なので一安心しました。
はじめ、審議会とか書いているのを見て、私は出先が多いので、そういった審議会とかに触れたことがなくて、そういったものではないということで、ちょっと一安心しまして喋らせていただきました。何かで発言できたらいいかなと思って今日は来ましたので、また皆さんよろしくお願いします。

（青木部会長）
ありがとうございました。
続きまして、先山さん、お願いします。

（先山オブザーバー）
徳島県西部総合県民局美馬庁舎から来ました、先山と申します。よろしくお願いいたします。
私自身につきましては、徳島出身で、学生時代につきましては県外のほうに出ておりました。また就職ということで５年前に徳島に戻ってまいりました。
最初の所属につきましては、健康増進課というところで健康増進栄養担当として、糖尿病対策ですとか栄養対策とか担当させていただいておりまして、昨年度より企画振興部美馬庁舎のほうにやってまいりました。
現在は県民生活総務担当としまして、今、私自身の仕事といいますのは、内部の総務担当というこ

とで、お給料でしたり職員の方のいろんな補助というかたちになっているんですけれども、今回このような会に参加させていただいておりますので、せっかくですので県西部のピーアールということで、地域の皆様と圏域の市町、県民局が一緒に取り組んでいることについても簡単に紹介させていただければなというふうに思っております。

本日はお手元に封筒を御用意させていただいているんですが、その中にパンフレットを３部用意しておりまして、皆さん、「にし阿波」という言葉を聞いたことがありますでしょうか。

「にし阿波」につきましては、県西部の西部管内、美馬市、三好市、つるぎ町、東みよし町の２市２町をエリアとした地域を「にし阿波」と呼んでおりまして、この「にし阿波」の名前については、県西部のピーアールということで県外の方が聞いたときに、徳島といえば阿波踊り、そして阿波の西のほうということで、読んで字の如しではあるんですけれども、「にし阿波」というこの圏域のブランドとか、連携のイメージとして育てていくということで、「にし阿波」と呼んでおります。

この「にし阿波」につきましては、平成２０年度に四国初の観光圏として「にし阿波観光圏」として国の認定を受けております。その第１期認定が今年度末で終了するということから、現在、また第２期認定に向けて準備を進めているところなんですけれども、この第２期認定の気運を盛り上げるために、第１期の集大成としまして、この度、２月２日から３月３日までの１月間「にし阿波体感プログラムイベント　にし阿波と恋する時間～ＡＷＡ☆ＫＯＩ（あわこい）～」というものを開催させていただきました。

そして今回、本日お手元に配っているんですけれども、こちらのピンクの冊子ですね、残念ながら今年度のイベントにつきましては、この３月３日で期間が終了してしまったんですけれども、中を御覧いただければおわかりのように、「にし阿波」の自然とか歴史、そして文化、食など地域資源を活かした、観光客の方が地域の人と触れ合える体験型観光プログラムとなっております。

最近、地域との結びつきというのが弱くなっていたり、人同士のつながりが疎遠になっている中で、こういった地元の方と触れ合うイベントというのは非常に重要だと考えておりまして、徳島県でもそうですし、西部でもそうなんですけれども、限界集落とか孤立化農村集落とか、産業とか集落維持の担い手が減少しているという圏域の課題とかがたくさんある中で、そういった地域の活力を総合的に高めて対応するということが重要であると考えております。

やはり、地域の活力ということになると、人が重要になってくると思いますので、徳島県に人を呼び込むという意味でも、また人を減らさないというような意味でも、私たち、こうした部会も含めまして、地域の方が誇りを持って関わっていただけるような、自分たちの町を自分たちで盛り上げようと思っていただけるような、そんな施策ができればいいのかなと感じております。以上です。

（青木部会長）

ありがとうございました。

続きまして、小原さん、お願いします。

（小原オブザーバー）

徳島市役所からまいりました、小原と申します。よろしくお願いします。

私は徳島市役所では、企画政策課といいまして総合計画なんかを所管している部署にはいるんですが、私が担当しているところはちょっと違う分野でして、「シティープロモーション」といいまして、徳島市のイメージアップの仕事で、徳島市のいろいろな地域資源、阿波踊りですとか水都、そういう魅力を磨き上げて一体的に発信することで徳島市の都市としてのブランド価値を向上していこうというのを担当しておりまして、それと、ちょっと難しいんですが、平たく言いますと、徳島市のイメージアップキャラクターの「トクシー」、今日お配りした名刺なんかにも大きく入れさせていただいているんですが、そんなのを活用したピーアール活動なんかを行っています。

こういう活動をしておりまして、ピーアールといっても行政だけではできないということで、民間の方とも最近は連携させていただいて、皆さん、街を元気にしたいという思いが非常に強いし、みんな同じ方向を向いた夢をお持ちだということで、そこを行政が潤滑油のように入っていくことで今後、街を盛り上げることができたらなと考えております。

今日はこの部会にお声掛けをいただきまして、今やっている仕事も柔軟な発想が求められる部分ですので、皆さんのクリエイティブな議論に加えていただけるということで、非常に楽しみにしておりました。よろしくお願いします。

（青木部会長）

ありがとうございました。

続きまして蔵本さん、お願いします。

（蔵本オブザーバー）

小松島市役所から来ました、蔵本聖子と申します。よろしくお願いいたします。

現在、小松島市役所の中では契約検査課というところに所属をしておりまして、市が発注する工事の入札でそれに係る契約、あと物品購入の入札、契約というものを担当する課に配属になっています。

その前は入所してから３年間、競輪局に配属になりまして、競輪というのは男性の方は御存知の方も多いと思いますが、女性の方にはあまり馴染みはないかと思います。徳島県では小松島だけが競輪をするんですが、お年寄りしか来ないという部分が多いので、それが今も昔も大きな課題ではあります。

自分自身も競輪というのは、競輪局に配属になるまで行ったこともないし、ほとんど知らなかった分野ではあるんですが、今は先行とかマクリとか語らせたらすごいなというふうに思っております。

市役所に入る前は民間経験がありまして、塾で講師をしておりまして、自分は背が低いのですが、自分よりも大きい小学生とか、中学生、高校生、予備校生まで教えておりましたので、非常に楽しかった思い出があります。

趣味としましては、テニスとかクラシック音楽を聞いたりという部分で、今の自分の中のヒットは、

１月前に車の新車を買いまして、トヨタのハチロクを買いました。その前はアルファロメオに乗っておったんですが、全然車のことはわからんし、走り屋ではないんですが、大変通勤が快適になって楽しく仕事に行っております。

今回はこういった部会に初めて参加させていただきますので、自分なりにいろいろ発言をさせていただいて勉強もさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

（青木部会長）

ありがとうございました。

続きまして松本さん、お願いします。

（松本オブザーバー）

神山町産業建設課の松本と申します。よろしくお願いします。

この産業建設課で私は農業の係をしております。農業といいましても、現状は県から来る調査ものやら報告ものに追われる日々で、あまり農業のことも知らないのが現状です。

あまり言うと愚痴になるので止めておきますが、私個人のことを申しますと、３歳になる子どもがおりまして、子育て奮闘中ということです。

私自身、神山町生まれ、神山町育ちで、そして神山町役場に就職ということで、井の中の蛙のような状態ですが、このクリエイト部会で少しでもお役にたてるような発言ができて、皆さんの発言等が総合計画なり国への提言に反映されたり、ゆくゆくというか、それが実現されればとても楽しみなことだと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

（青木部会長）

ありがとうございました。

続きまして石井さん、お願いします。

（石井オブザーバー）

失礼いたします。板野町役場総務課からまいりました、石井と申します。よろしくお願いいたします。

普段は、町長の秘書をしておりまして、こういう会議に出るのは初めてですので、大変緊張しておりますがお願いいたします。

板野町っていいますと皆さんあまり御存知ないかもしれないんですけれど、県の指定管理者のほうで運営されている「あすたむらんど徳島」さんや、サッカーＪ２の「徳島ヴォルティス」さんの練習場があったり、町の運営している「あせび温泉」というのがありますので、また近くにお越しの際は是非来ていただいたらと思います。

私自身は、ずっと生まれて板野町で、大学４年間だけ大阪に出まして、また就職も板野町、履歴書

を書くと非常に「板野」がつくという、職歴を持っています。

個人的なこととして、まだ独身なので自由な生活を送っていますので、今回も自由な発言をさせていただいたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

（青木部会長）

ありがとうございました。

最後、釋子さん、お願いいたします。

（釋子オブザーバー）

東みよし町企画課の釋子と申します。よろしくお願いいたします。

川原町長が町村会の会長ということで、東みよし町から女性４０歳以下でお願いしますということで、参加させていただいているんですけれども、うちの町は職員の高齢化率も高く、４０歳以下の女性がもう１０数人、出先を除いて、しかいませんので、私が出ることになりました。

趣味はバレーボールなんですけれども、毎年自治労のバレーボール大会に参加するのに楽しみにしているんですが、やっぱり女性の職員が少なくなってきて、その大会に出るのも怪しいかなという状況になっています。

担当は町報の広報誌を担当しておりまして、２年目になるんですけれども、今年は町内の中小企業さんを紹介しようと思って、先輩の助言とかもいただき掲載しておりました。福島先生にもうちょっと早く会えておれば、もうちょっとアピールできる観点も違って良かったかなと思っております。

こういった機会に参加するのも初めてで、政策形成するような部署に行くこともなかったので、皆さんに教えてもらうことが多いかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

（青木部会長）

ありがとうございました。

これで、以上で２０人全員の自己紹介が終了しました。ちょっと思ったより時間が、久しぶりに１時間以上自己紹介を聞いたなという感覚が皆さんあろうかと思いますが、議題は進めていかなくてはなりませんので、皆さんよろしくお願いいたします。

それでは議題１でございます。「若者クリエイト部会の運営について」でございますが、お手元の資料１をご覧ください。

できるだけ議論をするために、言葉早目でしゃべります。

お手元の資料１「部会運営のコンセプト（案）」をご覧ください。

「１　設置目的」にありますように、当部会は「若者の若者による徳島の未来創造」のための部会として、我々若者の意見・提言を徳島県の新たな政策創造の「種」となるよう活かしていくために設置されております。

そこで、当部会の運営に関する提案ですけれども、私は先ほど自己紹介の中でも「総合計画審議会」

の委員でしたことを述べたかもしれませんが、「総合計画審議会」に４年間いさせていただきました。

その中で、やはりこの部会では「総合計画審議会」の運営とは違った、まさに新たなスタイルでの運営を行いたいと思っております。

資料１に「２　運営方針」として五つを示してございます。

まず１点目は、皆様の大胆な発想からの御意見を、「国に対する政策提言」や、「行動計画の施策・事業」をはじめとした県の政策創造に結びつくよう運営したいということ。

２点目は、私が調整役をさせていただき、委員同士の活発な議論となるよう、また、議論の流れが県への要望に偏ることなく、我々も県の政策創造に参画するという認識で議論を進めること。

３点目は、本日、オブザーバーとして御参加していただいている、県、市町村の職員の皆様にも我々の議論に加わっていただき、どんどん御発言をいただきたいこと。

４点目は、我々の発言に対し、県に逐一回答を求めるような運営とはしないということ。

そして５点目は、「メーリングリスト」を想定しておりますが、委員同士の情報交換・情報共有を図るということです。多分この時間内に諮りきれないと思いますので、是非この５点目を活用したいと考えております。

このように、この５点をさせていただきたいと思いますが、皆さん、よろしいでしょうか。

逆に、今までの運営と同じようにズラッと並んでいただいて、逐一報告が必要だというのであれば、また別な話なんですけれども。

よろしいでしょうか。こういった画期的な「クリエイト部会：を発信させていきたいと思っておりますので、それでは、御賛同していただいたという解釈でよろしゅうございますか。

では、今、御賛同いただいた運営方針、それから運営方針の下に書いてある「３　スケジュール例」にも関わることなので、「国に対する政策提言」と「行動計画」に関して、ここで少し事務局から御説明をお願いいたします。

（事務局）

総合政策課の松永と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは「国に対する政策提言」と、「いけるよ！徳島・行動計画」について御説明を申し上げたいと思いますが、今から申し上げることは、必ずしも部会の議論のスケジュールを拘束するというものではございませんで、一応の政策立案に当たっての目安という意味での、県が意識しておりますこの２点について、その概略とそのスケジュール等を御説明したいなというふうに思います。

資料のほうでございますが、まず資料２「国への政策提言のスケジュール」を御覧ください。

この資料は平成２４年度の実績を記載してございます。まず「５月提言」というのがございます。これは毎年、次年度の政府予算編成に向けまして、この時期に実施しているもので、昨年は５月３１日に行っています。

国の予算編成のスケジュールは一番下の欄にございますように、各省庁が財務省に次年度の予算要求をいたします概算要求の締め切りが昨年度の場合９月７日でございました。その後、各省庁と財務

省との折衝がありまして、予算案が決まっていくことになりますが、その決定は年明けの１月２９日でございました。

２４年度の日程は、備考欄にもあるんですが、例年より少し遅くなっておりまして、２５年度は例年どおり概算要求の締め切りが８月末。それから、政府予算案の決定が１２月下旬と見込まれております。

また、6月を目途に経済財政諮問会議におきまして、経済財政運営の指針であります「骨太の方針」が取りまとめられまして、国の予算編成の基本方針や中長期的な経済財政政策の大筋が示される見込みとなっております。

こうした国のスケジュールに対応しまして、特に今年の場合は「骨太の方針」の策定も見据えまして、本県の意見が国の制度設計とか、予算編成にしっかりと反映されるように５月に国への政策提言を行うこととしております。

また、「緊急提言」という欄がございますが、その時々の国の動きとか喫緊の政策課題に応じまして臨機応変に時機を捉えて提言しているものでございまして、平成２４年度の実績は御覧のとおりでございまして、２５年度につきましても同様に行っていきたいというふうにしておるところでございます。

本県は少子高齢化をはじめといたしまして、全国に先んじて直面している様々な課題に対し、その「解決策」を全国に示すということで「日本再生をリード」する「課題解決先進県徳島」というのを目指しております。

地方から国に対する要望というのは、地元の事業に予算を付けてくださいといいましたような、いわゆる「陳情」になりがちなんですが、今、本県が行っております政策提言というのは、そういった趣旨のものではありません。「知恵は地方にこそあり」というふうな気概を持って、英知を結集しまして「日本の羅針盤」となる「徳島発の政策提言」ということを行っているところでございます。

２４年度に実施しました内容につきましては、「５月提言」と２５年１月の「緊急提言」等を事前にお送りさせていただいておりますので、そちらを御覧いただきたいと思いますが、ここではその中から実例を三つほど御紹介しておきたいと思います。

資料３というのを用意しましたので、資料３を御覧ください。

まず１ページ目でございます。「災害時における高速道路の有効活用」というテーマでございまして、大規模地震への備えなどの防災対策というのが、まさに喫緊の課題でございますので、他にも多くの提言をしておりますが、ここでは２ページのポンチ絵を見ていただいたらと思いますが、提言の①としまして、「被災地域への支援機能を強化する」という観点からサービスエリア等を整備すること、それから、提言の②といたしまして、「高速道路の盛土法面を緊急避難場所に活用すること」を提言しております。

こうしました「高速道路を津波非難場所として活用すること」ということにつきましては、右下にございますように、県と徳島市、それからネクスコによる三者協定を全国で初めて協定するなど、本県では積極的に取り組んでおるところでございますが、従来の古い発想ではなかなか発案できない取

組事例でございますので、御紹介したところです。

なお、資料にはございませんけれども、「防災」ということで申し上げましたら、本県からは災害が起こってから対処するのではなくて、事前にしっかりと備える「災害予防」の概念を導入するなどの提言を繰り返し行ってきたところでございまして、そういった提言も反映されて、２５年度の政府予算案におきましては、「事前防災・減災対策」を中心とする大幅増となるような予算が編成されたというところでございます。

それから二つ目の例としまして、３ページに「四国新幹線の実現について」というのがございます。四国新幹線につきましては、２４年の「５月提言」をはじめ、その後も何回か「緊急提言」をしておりますが、３ページの資料は、２５年１月に提言したものでございます。そこにもございますように、「国土強靭化」に欠かせない「山陽新幹線のリダンダンシーの確保」とわが国の優れた新幹線技術を活用した「技術立国日本の再生」などを実現するために、「整備計画」への格上げに向けた調査など四国新幹線の実現に取り組むことを提言してございます。

また、４ページの中ほどにもございますように、全国知事会が昨年１０月に日本の目指すべきグランドデザインとして取りまとめました「日本再生デザイン」というのがございますが、その中にも、「多軸型国土の形成を図る『四国新幹線』」というのが位置付けられたところでございます。

こういった提言は、長期的なスパンでの取り組みが必要なこと、また、徳島とか四国にとりまして、大変夢のある提言の例ということで、御紹介いたしました。

それから三つ目といたしましては、５ページに妊婦検診とか予防接種の項目がございます。この中で、「妊婦の健康診査」とか「子宮頸がん等ワクチンの接種」というのがございますが、２５年度以降も継続されるように、必要な法整備とか財源措置を提言したところ、その提言が反映されまして２５年度政府予算案におきましては、財源措置を含めた恒久的な仕組みというのが盛り込まれたところでございます。

こうした、安心して子どもを生み育てることができる施策について、その財源措置が実現した例ということで御紹介いたしました。

引き続きまして、「いけるよ！徳島・行動計画」について、御説明をいたします。資料４というのがございます。御覧ください。

この計画は、平成２３年度から平成２６年度までの４年間の県政運営の基本指針として２３年７月に策定し、「『幸福を実感できる！』オンリーワン徳島の実現」の基本理念の下に各種施策を展開しているところでございます。

計画の構成といたしましては、そこにございますように、「長期ビジョン編」、「中期プラン編」、「行動計画編」の３層構造となっておりまして、４つの視点のもとに７つの基本目標を定めております。

この計画の推進に当たりましては、「進化する行動計画」といたしまして、社会経済情勢の変化とか、新たな県民ニーズに即応するということで、毎年度必要な「改善見直し」というのを実施しております。

この「改善見直し」の進め方につきましては、「２　行動計画のマネジメント・サイクル」という

ところにございますので、御覧ください。

いわゆる「ＰＤＣＡサイクル」の図がございまして、右下の「ＤＯ」というところでございますが、この計画に盛り込んだ各種施策を着実に推進いたしまして、その推進状況につきましては、左下の「ＣＨＥＣＫ」のところになりますが、まず事業担当課が自己点検・評価を行っております。それを「県政運営評価戦略会議」にお示しいたしまして、第三者の立場から御評価をいただいております。昨年は７月から８月にかけて実施したところでございます。

その評価結果を受けまして、左上の「ＡＣＴＩＯＮ」のところになりますが、各施策事業ごとに改善の方向性というのを検討いたしまして、去る１月２１日に開催しました「宝の島・とくしま創造部会」において案をお示しし、御意見をいただいたところでございます。

そうした検討を経まして、右上の「ＰＬＡＮ」のところになるんですが、来年度に向けました改善見直し案について、去る２月１２日に開催しました「総合計画審議会」におきまして、御議論をいただきまして、現在はパブリックコメントを実施しているところでございます。

裏面を御覧いただきますと、平成２５年度に向けた改善見直し案の主な項目を整備しております。内容は資料を御覧いただきたいとは思うんですが、上半分にございますように、「県政運営評価戦略会議」において、「Ｃ評価、Ｄ評価」を受けました事業につきましては、特に徹底した見直しということを行っておりまして、そこに記載のあるような見直しをすることにしております。

また、中段にあるんですが、主要事業の新設ということにつきましては、「津波・塩害対策のための農業版ＢＣＰの策定」とか、「鳴門病院の地方独立行政法人化」とか、「四国新幹線実現の取組」などの６件となりまして、以下は御覧のような内容となっておりまして、①から③を合計いたしますと全てで１２６件の改善見直しをすることとしておりまして、この案につきましては、パブリックコメントを経て、現在開催中でございます県議会の御審議を経た後、３月中に来年度の行動計画として決定する予定としております。

説明は以上でございます。

（青木部会長）

ありがとうございました。

それではもう一度、この資料１に戻っていただきまして、スケジュール例についてでございます。

この資料１の下の方ですね。「３　スケジュール例」です。先ほどの運営方針を踏まえ、事務局とも相談させていただき、これはあくまで一例でございますが、今後資料に記載のとおり、県が５月に実施予定の「国に対する政策提言」、「行動計画の中長期プランや改善見直し」、また「来年度の県の施策、事業に結びつく当初予算」、「行動計画の改善見直し」などをテーマに様々な意見交換を重ねていければと考えております。

もちろんこれら以外のテーマにつきましても、皆様からの御要望に応じ柔軟に対応いたしますので、よろしくお願いしたいと思います。

このスケジュールにつきましては、これであくまで決定ということではなく、皆様の御意見を聞き

ながら決めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それではやっと御意見をいただく場にもってまいりました。

今日は予め個別のテーマを設定しておりませんが、まずは当部会の設置目的にある「徳島の未来創造」に関し、日ごろ皆様が抱いている「大胆な発想」などを御披露いただき、それぞれの発想などについて自由活発に意見交換をしていきたいと思います。オブザーバーの皆様も所属の立場を離れ、広く県政全般にわたる御発言をお願いしたいと思います。

それでは、どなたからでも結構でございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

どうぞ、せっかくなので、開口一番。いつも審議会に行くと、私は「総合計画審議会」で一番にいつも、ちょうど板東さんの席で一番に発言をさせていただいております。誰か一番にどなたからでも。「これはせっかく来たから絶対に言わないかんよ」という方、いませんか。

では、蔭山さん、何か御意見ございませんでしょうか。

（蔭山委員）

ちょっと今、何も思いつかないので、他の方にお願いしていいですか。

（青木部会長）

わかりました。

岡田さん。いま目線が合ってしまいました。ちょっと大胆な発想を、いろんな視点から御発言いただければ。

（岡田委員）

大胆というか、ボンボンの発想になってしまうかもしれないんですけど、よろしいですか。

（青木部会長）

もちろんです。

（岡田委員）

いろいろ僕も世界を回っている中で、最近結構いわれているのが、「オーガニック」だと思うんですけど、これは全然、一つの例というか…

（青木部会長）

どうぞ、御発言ください。

（岡田委員）

「オーガニック」とかがいわれていると思うんですけど、徳島でも結構その「オーガニック」とい

うことに対して、意識が高くなってきている人たちもいると思うんですね。
　そういった「オーガニック」というところに対して、県としての支援みたいなのは何か・・・
　支援というか、調査みたいなのはされていると思うんですけど、例えば全く無農薬、これは農薬が良い、悪いは、僕は農薬はあってもいいと思うので、どっちでもいいんですけど、「オーガニック」に敏感な人たちは、隣の畑で農薬を使っていても、農薬が飛んできているから嫌だとか、食べないとか、そういうふうに言われる方もいるので、全く無農薬の地域をつくって、「オーガニックファーム」みたいなのを徳島県でやったりするというのはどうでしょうか。

（青木部会長）
　全くの無農薬の地域をつくるということですね。
　地域となると、非常に広いような、イメージとしては・・・

（岡田委員）
　別に小さくてもいいと思うんですけど、一つ谷あいの地域とか。

（青木部会長）
　はい、ありがとうございます。
　続いて他に、どうぞ。今日はテーマは決まっていませんので、今の岡田さんのような御発言で十分なので、いろいろな意見を言っていただければと思います。今のオーガニックの無農薬の地域をつくるという、確かにそれも一つの施策になるんじゃないかと思います。
　他、ございませんか。ないと逆に当てないといかんようになるんですね。
　ああ、どうぞ。近森さん、お願いします。

（近森委員）
　さっきの自己紹介で言い忘れたんですけど、私、今、中学２年生の子どもがいるんです。いつもではないんですけど、とにかく「徳島ダサイ」というんですね。「ダサイ」と。「田舎だし」とかいろいろ言うんですが、私もそういえば経験がないわけではないなと思っているんですけど、
　今は、この年になると徳島の特産物とかすごく、例えばサツマイモであったり、ワカメであったり、今の若い子からしたらダサイと思われがちなものが、今は自分にとっては大事なものであり、また、県外の方とか自分の友達にもお土産で持って行ったりするんですけど、例えば最近、「セブンイレブン」があちこちオープンしてきて、徳島も全国区の括りになってきたのかと思ったんですけど、そういう大手のコンビニとかで徳島のお菓子なんかを置いてもらうということは、県ではできるんでしょうか。

（青木部会長）

地産地消の観点でいうと、多分コンビニで今後、共同的な開発、これは福島さん、四国大学で「サークルＫサンクス」と弁当をされてましたよね。ちょっとその辺を。

答えは一つでございませんので、いろいろな知識を皆さんでやっていくというのがポイントになります。あえて県の方にそれはどうなんですかと、もちろん皆さんが聞いてくれと言ったら聞きますけども、あえて今日はそれを聞きませんので、福島さん、ちょっとお願いします。四国大学の事例で構いません。

（福島副部会長）

私がお答えできることは全くないかと思うんですが、大学とタッグを組んで会社のほうに売り込んで、ということがあったと思うんですけど、それも徳島の限られた場所での販売でしたので、それを全国にということになると、県のほうはタッグを組んだりして、すだちのあの「ローソン」のと申し上げていいかわかりませんが、すだちの「からあげクン」とか、まだ他に何か、それも同じコンビニだったかと思うんですが､阿波尾鶏のおにぎりが出ているというお話を伺ったような気がしますので、少しずつ、徳島のブランドの農産物というのが出ていっているのかなという気がします。

なんですが、農産物、皆さんここに、またカタい会議みたいですけど、事前にいただいております資料の５番の「農産物の経営所得安定制度について」というところでも例に挙げていただいているんですが、「輸出とかをしていかないと、なかなか人口が減ってきている中で、これを実現するのは難しいよね」というお話が上がってまして、「海外に輸出をするためにどうするか」といったときにブランド化する必要があって、そうしないと高く買ってくれないとか、いくらオーガニックでつくっても売れてなかったら、これはネームバリューがなかったら信頼できんということになりますので、そういったところでブランド化を進めていくというのが大切かなと思います。

そういうことをやっているうちに、向こうからどんどん来てくれるかなと。コンビニ側もいろいろ要請があって、「じゃあ、徳島からこんなん出していきましょうとか」ということになるかと思いますので、「じゃあ、どうブランド化していくか」ということをこれから我々は考えていかないと駄目かなというふうに思います。

例えば、フェイスブックで、「徳島のこれメッチャ美味しいわ」というふうに言ってみるとか。そんなところから始まるのかなと思いますので、皆さんとどうやって徳島のいいものを、他の国、全国もそうなんですが、海外に向けても発信していくかということを一緒に考えていけたらと思います。答えになってなくて申し訳ないです。

（青木部会長）

ありがとうございました。

他に御意見ございませんか。

いまのように、一つ言っていただくといろいろな意見が重なってまいりますので、是非意見を、「私

はそう思う」というのでも構いませんので、言っていただければと思います。
　どうぞ。池添さん。

（池添委員）
　意見というか、ふんわりとした感覚的なことなんですけれども、私も県外から来ていて、何名か県外から徳島に住まわれている方がいらっしゃると思うんですけど、もともと徳島が持っている魅力というのが、いまのカッコいい、カッコ悪いという話もあるんですけど、きっと別に何か触らなくてもアピールの仕方によっては、カッコいいものに変わるようなものが、まだまだあるような気がして、その事例の一つがまさに祖谷の古民家とか、行きにくいからプレミアが付いて、海外からメッチャ乗り継がないかんから行くみたいな、そういうのがきっとあると思うんです。
　そういう何か新しいものを、都会でやっていることを真似して何かつくるよりか、徳島の魅力というのがもう既にある気がして、それを何か触って、新しい感覚で違う方向から光を当てたら何か魅力が出るんじゃないかなというのが、今の岡田さんのオーガニックにしてもそうなんですけど、農家があるからこそできることだったりとか、関西で売られている野菜だったら、ほとんど徳島産ですし、そういうことがある気がします。
　すみません、意見というか、感覚的なことで。

（青木部会長）
　いえいえ、池添さん、ありがとうございます。
　他にどうぞ、御意見ございますか。岡田さん、どうぞ。

（岡田委員）
　池添さんの意見、すごくアグリで、そういう意味では、公債を発行しているじゃないですか、今、どのくらいの残高になっているのか・・・徳島県の公債の発行残高ぐらいは把握してもらいたい。（６，２００億円ぐらいです。臨財債除きで・・・）　要は不良資産みたいな感じになっているものだったりとか、見えない資産みたいなのはすごくあると思います。担保がないのに発行しているとかいろいろ言われるかもしれませんが、結局その見えない価値をしっかり「見える化」してあげて、価値に変えていかなくちゃいけないという、すみません。変なことを言ってます、僕・・・（どうぞ続けてください）じゃないかなというふうに思っています。

（青木部会長）
　ありがとうございます。岡田さん。
　他に御意見ございませんか。はい、竹内さん。どうぞ。

（竹内委員）

昨日、どんなことをしゃべろうかと考えてきたことですが、バラバラになるんですが、いいですか。

さっきの使ってない資産とかの話にも関係あるんですが、僕は吉野川の河川敷のすぐ近くに住んでいるんですが、今、１歳の子どもがいまして、よく散歩させてもらっているんですが、結構土・日に散歩することが多いんですが、ガラガラなんです。親子がすごい広いグラウンドでボール投げて、バットで打って、永遠玉拾いに行っているみたいな、すごい土地が余っているんですよ。その辺はもっと有効活用できたらいいのかなというふうに思いました。（河川敷の中ですか）河川敷のグラウンドのあたりですね。サッカーしたり野球をしたりとか、ほとんど全てのスポーツができるような場所になっていると思うんですけど、かなり空いています。

（山下オブザーバー）

恐らくおっしゃっているのは「堤外地」ではないかなという話と思うんです。いろいろ規制はあるんかなというのはあるとは思うんですが、そのあらりをクリアできたら何か、そういう土地も有効活用できるんかなと思うんですけれども。すみません、こんな感じで。

（竹内委員）

先日、マラソンが趣味で「海部川風流マラソン」に出ていたんですけど、朝一番の汽車に乗らないと受付に間に合わないので、一番朝一に乗らないといけないんですけれど、ワンマンで牟岐線に乗りまして、美波町を過ぎて、海陽町に行くんですが、マラソンの人でワンマンが満員になってしまって、一般の方にもかなり御迷惑を掛けているという、ランナーだらけになってたんですね。

それで汽車を降りるときに、運転手さんから「今日何かイベントがあるんですか」というふうに聞かれて、多分、把握されてないんです。そのあたりをもう少し、職業の分野というのがあるのかもしれませんが、例えばイベントがあるというのを汽車のほうに連絡が行っていれば、その日だけ特別に２両にするとか、そういうもうちょっと柔軟なやり方をすればみんなが幸せになれるのかなと思いました。

（青木部会長）

例えば、ヴォルティスの試合があるとき、臨時列車出てますね、確か。ヴォルティスファン、誰かいましたよね。いませんでした。確か、列車出てますよね。確か、臨時が出ているんですよ。そういった大きなイベント、竹内さんの御意見のように、大会等がある場合に公共交通機関へのしっかりとした対策ですね、それは経験としていけるのではないかと個人的には思います。

他、ないですか、どうぞどんどん。今のような御意見で十分ですので。普段日常で思っていることを気付きの観点でいいんです。逆に言うと。あまり大きなことを言おうというような、そんな審議会ではないので、逆に今のような日常の竹内さんのような気付きの観点でこれはどうにかならないかという御意見でも構いません。

はい、蔭山さん、どうぞ。やっと言ってくれる。

（蔭山委員）

思いついたのでいいでしょうか。

お話は全然変わってしまうんですけど、大丈夫ですか。

ちょっとこの間、出産したという話をしたんですけれども、３５歳以上になりますので高齢出産になるんですね。私の友達とかも、やっと最近結婚して第１子を３０代後半で出産するという子がすごく多いんですけれども、先ほどもありましたように、妊婦検診とか出産の費用というのはすごく公費で賄われていて、ほとんど自分のお金はかからないんですけれども、やっぱり３５歳以上となってくると、不妊治療をしている子とかも多いですし、それから検査自体の賛否はあると思いますが、出生前検査といいますか、最近血液検査でわかったりとか、胎児ドッグとか羊水検査とかいろいろあると思うんですけど、そういうのを受けようと思うと全部自由診療になってすごくお金がかかるんです。

不妊治療にしても出生前検査にしてもある意味、贅沢というか、できる人にしかできないみたいな感じになっていて、そういうところと女性でも大学を卒業して一生懸命働いていたら、あっという間に３０代が来てしまうんで、そこから２人、３人つくろうかと思っている人も多いと思うんですけれども、結局、こういう不妊治療とか出生前検査とかが全部自費になってくるので、経済的に諦めてしまって、本来だったらあともう何人か産めたのに諦めてしまうという人が多いと思うんですけれども、そういうところでもうちょっと公費で助成というか、助けていただけるようなシステムがありましたら出生率アップに繋がるんじゃないかなと思ったりもするんですけど、そのあたりっていかがなんでしょうか。

（青木部会長）

そうですね、それは即答できませんね。

できますか、保健師さんがおられますので、保健師さん、お願いします。

（榊原オブザーバー）

確かなお答えにはなかなかならないと思うんですが、先ほどおっしゃっていました不妊治療に関しては助成制度というのが徳島県はありまして、国の制度ではあるんですが、初年度については１年度当たり３回、１回につき１５万円までの助成制度というのがあります。

通算５年間使うことができまして、２年目以降については、１年度当たり２回まで１回の上限額は同じ１５万円で、今は２４年度までは運用されております。ちょっと２５年度から国のほうの制度がちょっと変わってきまして、金額のほうも多少ちょっと増減があったりもするんですけれど、不妊治療に関しては助成制度が今現在運用されています。

それから、高齢出産がいわれています、不妊治療をされている方、それから不育症も最近いわれています。それについては、徳島大学病院さんとか、一般の産婦人科のほうでも不妊の相談室だったり、

不育症の相談室だったりというのを設けていたり、各保健所でも女性の健康相談というので、産婦人科医の相談とか保健師の相談という窓口があったりしてます。

ちょっとお答えではないかも知れませんが、今運用しているものは以上です。

（蔭山委員）

その１５万円というのは、いわゆる体外受精まで進んだときの助成じゃないですか。じゃなくて、そこまでいかずに検査を受けたりとか、ちょっと排卵誘発剤を飲んだりとか、ＡＩＨを受けたりというレベルの人が圧倒的に多いと思うんですけれども、そのあたりの助成というのはゼロですよね。

そこの差がすごくあるなと。地味に２万円とか３万円ずつ毎月かかっているという人がすごく多いんじゃないかなというふうに逆に思いました。

（青木部会長）

蔭山さんのおっしゃるとおり、それを調べて逆に助成のほうに持っていくというような提言というのも一つの方向だと思いますので。ありがとうございます。

他ございませんか。時間が非常に厳しくなってきたんです。本当は全員に一言ずつ言っていただきたかったんですけれども、どなたか、「これだけは絶対言わな帰れん」という方、どうぞ。岡田さん。

（岡田委員）

まだいろいろ提案は、次回もしていったりするんですよね。

今日頭出しをして、それに対して議論をするというとか、そんな感じなんですか。

（青木部会長）

いいえ、そんな感じではないです。

今日はあくまでお互いを知る、また夢を語っていただくという設定になっていますので、今日はざっくばらんに今のようなお話をしていただければ構いませんので。

（岡田委員）

ざっくばらんに、それが微妙にどこまで言ったらいいのかという感じになっているような気もするんですけど。

（青木部会長）

逆に何でも言っていただいたほうが。

（岡田委員）

僕はポロッと思いつくのを書いてたんですけれど、さっきの「オーガニックファーム」と、どこも

そうなんですけど、県庁が暗い。

（青木部会長）
　えっ、県庁が暗いというのは。

（岡田委員）
　県庁が暗いんです。ぶっちゃけというか、省エネに御協力されているということだと思うんですけど、賑わいという意味での明るさ、要は、もっと若い子たちが県庁に入ってどんどんやってもいいんじゃないかなと僕、思うんですよ。
　言ったらアレでけど､ちょっと時間を持て余されている方もいらっしゃったりするじゃないですか。そういうとこで、「これ、ちょっとわからないんです。『いけるよ！』って書いてあるけど、どこまでいけるんですか」とか、そういう話があってもいいと思うんですよ。だから、そういう意味での賑わいがあってもいいんじゃないか。ヨットハーバーも前にありますし、というようなことだったりとか。
　だから、そういう意味で、県庁内にスタジオがあったりしてもいいんじゃないかなとか、そういうこととか、あとは、観光特使については、徳島県としてもやられているところはあると思うんですけれども、もっと、高知県とかは全然よくわからない大橋巨泉なんかを連れてきて観光特使にさせてやっているとか。川島直美とかもいきなりこうなっていたりするので（ワインね)、そういう強引なこともしていっても面白いんじゃないかとか、そういうことを書き留めていたのを言っちゃいました。

（青木部会長）
　わかりました。ありがとうございます。
　他、あとお一人ぐらい。川眞田さんどうぞ。

（川眞田委員）
　農業の話なんですけれども、私自身が徹底は全然してないんですけれども､「マクロビオティック」という動物性のものを食べないという食事方法があって、坂本龍一とかが一時熱く語っていたものがあるんですけれども、それをちょっと勉強していて、その知り合いの人から学んでいるんですけれども、そこのお店に行くと、そこの人たちは徳島県内で農薬を使わない野菜とかの購入場所を知っているので自分で買えるんですけど、そのマクロビを勉強していない別な方と話をしていると、徳島県内で有機農法とか無農薬でつくられたものを購入する場所がわからないので、ネット通販、「大地を守る会」とかからわざわざ買っているんですよね。
　でも、徳島県内の農家の人に聞くと、無農薬とか有機農法でつくっても、値段が高いから徳島県内の人は買ってくれないから、県外に出しているんだという方々がすごく多くて、ミスマッチングがそこで起きているなというのを感じてます。

私が玄米を買っているところも、マクロビは主食が玄米なんです。白米、精製されたものを食べないというのがあって、で、玄米なんですけれども、玄米を買っている農家の方も、私は年間で大体１５キロ毎回買うんですけれども、１５キロとか３０キロという単位で余ってしまうことがあって、それは県外の人に売っているんだけれども、県内の人に買ってもらうほうが送料とかの問題があるので、自分としてもすごく嬉しいんだけれどもという話をしていて、そこのミスマッチングを解消する方法として民間でできることもあると思うんですが、やっぱり行政の広報力というのはすごく大きいと思うので、マクロビという限られた食生活以外の人にも、先ほどおっしゃっていたみたいにオーガニックというのは関心が高いものだと思うので、何かその辺で方法がないかなというふうに私も感じました。以上です。

（青木部会長）

ありがとうございます。

やはり様々御意見があります。ただもうちょっと御議論をしたいんですけれども。最後、池添さん、どうぞ。

（池添委員）

主人に休んで代わってもらっている以上、言っておかないとあかんかなと思ったんですけど、実は主人は県職員なので、同じ課の方には御迷惑をおかけしていると思うんですが、先ほどの不妊治療とか子どもを育てるに当たっての話で、育休を取っている男性の比率というのが少なくて、頑張ろうと言われているけど全然頑張れてない状態で、でも誰かがやっていかないと始まらないし、多分３０年後もこの状況が続いているかもしれないなと思っていて、その一歩としても家族で話をして、主人は育児の時短を取ってもらって、その帰ってきた後で私が研究の仕事をしたりしているんですけれども、その時短とか育休制度は、是非まず公務員とかからが一番取りやすいと思うので、オブザーバーの皆様方も小さい子どもさんがいらっしゃったりする世代だと思うので、女性も仕事を持つ比率を上げるためにも委員の中からも是非取っていただきたいと思います。

（青木部会長）

ありがとうございました。前向きな御意見ですね。

板東さん、高木さん、皆さん、今の池添さんの御意見に対してどうですか。逆の御意見のある方、最後、高木さん。どうぞ。

（高木オブザーバー）

私も５歳と３歳になった娘と息子がいるんですけれど、確かに、妻が今専業なので、子どもが病気をしていて看病を任せてます。昨日からですけれども、できるだけ参加できるようにしてます。

県のシステムとして、子が病気したときに休めるような看護休暇もあって、それも積極的に使って

いこうと思っていますので、よろしくお願いします。

（青木部会長）

この辺でよろしゅうございますか。

様々な御意見をたくさん、まだまだ言い尽くせないのは十分に私はわかるんですけれども、残念ながらお時間のほうがやってまいりましたので、この辺で意見交換を終了したいと思います。

また本日言い足りなかったことや、情報交換すべきこと、また今後の議論すべきテーマなどがありましたら積極的にメーリングリストを御活用お願いいたします。

なお、メーリングリストについては県で管理していただけるとのことですので、後日、総合政策課、事務局のほうから各自のメールアドレスを照会させていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次回の開催についてですが、先ほどの「スケジュール例」にありますように、５月実施の「徳島発の政策提言」についての意見交換会ということで、事務局には恐縮ですが、再度日程調整をお願いして、できるだけこの２０人のメンバー全員の出席を目指して、大変新年度、多分ここにおられる皆さんは第一線級ですので、お忙しいのはわかっておりますが、４月上旬か遅くとも４月中旬までには第２回の会議を開催したいと思いますが、よろしいでしょうか。

忙しいのはわかっております。政策提言に上げるためには、やはり事前にしておかないと。逆に政策提言がまとまってから会議をしても、「いやいや青木さん、それは部会でこうなりましたよ」という事務的な回答が返ってくるのみですので、そうじゃなくて、若者クリエイト部会は事前に手を打ってしっかりとやっていきたいと思っておりますので、皆さんよろしゅうございますか。

はい、それではそのようにさせていただきます。御協力をよろしくお願いいたします。

最後に事務局から何かございますでしょうか。

（事務局）

特にはございませんが、ただ今ありましたように、４月の次回の開催ということで、また日程調整はさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（青木部会長）

それではそのようにさせていただきます。

以上で本日の議事は終わらせていただきます。

議事運営に御協力いただきまして、委員の皆さん、本当にありがとうございました。

（八幡政策創造部長）

それでは、長時間にわたり、ありがとうございました。

今日は第１回目ということで、顔合わせ的な要素が大きかったと思いますし、若干、まだカタいところがあるかもしれませんけれども、次回、我々もいろいろな具体的なものをちょっとずつ示してい

ければと思っておりますので、これはそれにこだわっていただく必要はなく、今日のように、例えば、オーガニックの話もしっかりと受け止めさせていただきますし、いろいろ御提案いただいた話、大きいのから小さいの、いろいろあると思いますけれども、それについても我々のほうで考えさせていただいて、更に「いやいやこういうことなんだよ」とかいう高めていければいいなと思っております。

多分、我々のほうも遅くなっていけばなっていくほど、ディフェンシブになってきますけど、今は真っ白なのでいろんなことを言っていただければ。それは最終的にできるか、できないかというのはありますけれど、先ほど青木部会長がおっしゃったように、決まってからでは守らざるを得ないときがありますけど、今は全然真っ白なところからスタートしていますので、来年度、我々が国に向かって言うこと、あるいは自分たちでやることを考えていかなくてはいけない中で、皆様の御意見を最大限取り入れて、取り入れるといいますと一部取り入れるみたいですけれども、どうやって生かしていくか。これはこう、これはこう、何らかのかたちで全部生かしていくというふうにやっていきたいと思っております。どうぞ、今後ともよろしくお願いいたします。

今日はありがとうございました。

以上をもちまして、本日の「若者クリエイト部会」を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

（以上）